

消毒綿棒ポビドンプラス1.5

(綿棒付き10%ポビドンヨード製剤)



使用上の注意



してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなる)

1. 次の人は使用しないこと

本剤または本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人



相談すること

1. 次の人は使用前に医師、薬剤師または登録販売者に相談すること

- (1) 医師の治療を受けている人
- (2) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人
- (3) 患部が広範囲の人
- (4) 深い傷やひどいやけどの人

2. 使用後、次の症状が現れた場合は副作用の可能性があるので、直ちに使用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師または登録販売者に相談すること

関係部位	症 状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ

まれに下記の重篤な症状が起こることがある。その場合は直ちに医師の診療を受けること。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	使用後すぐに皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しき、動悸、意識の混濁等があらわれる。

3. 5～6日間使用しても症状が良くならない場合は使用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師または登録販売者に相談すること

効能・効果

きり傷、すりむき傷、さし傷、靴ずれ、やけど等の患部の殺菌・消毒。とびひ、おでこ等の感染皮膚面の殺菌・消毒。

用法・用量

一日数回患部に塗布。

<用法用量に関する注意>

- (1) 用法・用量を厳守すること。
- (2) 小児に使用させる場合には、保護者の指導監督のもとに使用させること。
- (3) 目に入らないように注意すること。万一、目に入った場合には、すぐに水又はぬるま湯で洗うこと。なお、症状が重い場合には、眼科医の診療を受けること。
- (4) 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い流してから使用すること。
- (5) 外用にのみ使用すること。

消毒綿棒ポビドンプラス 1.5
承認番号 21900APX00615000
承認年月 2007年7月
販売開始 2009年5月

組 成

消毒綿棒 ポビドンプラス 1.5	担体	綿棒
	有効成分	ポビドンヨード10w/v%
	容量	綿棒1本あたり薬液1.5mL

添加物：

グリセリン、ラウロマクロゴール、クエン酸、リン酸水素ナトリウム

保管及び取扱い上の注意

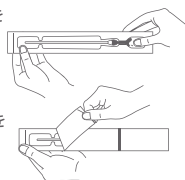
- (1) 直射日光のあたらない、涼しい所に保管すること。
- (2) 小児の手の届かない所に保管すること。
- (3) 誤用の原因になったり品質が変わるため、他の容器に入れないこと。
- (4) 衣類等に付着したときは、水で洗い流すこと。
- (5) 使用期限の過ぎた製品は使用しないこと。
- (6) 綿に指が触れないように使用し、再使用はしないこと。
- (7) 薬液押し出し後又は開封後は、速やかに使用すること。
- (8) 薬液が漏れるおそれがあるため、薬液ポケットを下にして保管すること。

取扱い方法



本製品の薬液の押し出しを確実にするため、次の手順でご使用ください。

- 1 薬液ポケットを押して液を綿にしみこませる



- 2 フィルムをめくり綿棒を取り出す



薬液ポケットの押さえ方や使用環境(低温下など)によっては、力が加わりすぎてフィルムが破れるなどの原因となり、薬液が漏れ出すことがあります。

- 注1) 薬液ポケットは全体を上から押してください。その際、薬液が流れる部分をふさがないようにください。
- 注2) 万が一、薬液ポケットから液が染み出ている場合は、ご使用を控えてください。
- 注3) フィルム特性により低温下ではきれいに剥がれないことがあります。

発売元



川本産業株式会社
大阪市中央区谷町2丁目6番4号

製造販売元



平和メディック株式会社

〒506-0058 岐阜県高山市山田町1382番地6
お問い合わせ先 ☎0120-380-512
受付時間/9:00～17:00(土・日・祝日を除く)

副作用被害救済制度の問合せ先

(独)医薬品医療機器総合機構

https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html

電話 0120-149-931

